

2021年5月21日

医療法人啓盛会 関東脳神経外科病院
倫理委員会 各位

申請者 坂本 佑樹

審査申請書

下記について、審査を申請します

記

1.課題名	パルスオキシメーターからの派生の可能性
2.研究者所属氏名	医療法人啓盛会 関東脳神経外科病院 看護部 外来手術室 看護師 坂本佑樹
3.研究の目的及び意義	<p>現在、新型コロナウイルス感染が問題となっており、当院救急外来に於いても問診だけではなく体温測定や酸素飽和度のチェックをしている。体温測定は接触型体温計、パルスオキシメーターを使用しているが、一つの機械で双方の測定が可能であれば測定が簡便になる。また、マニキュアをしている場合、パルスオキシメーターにて酸素濃度を測定する際に酸素飽和度が低く表示されることがあり、正確な値を測定するためマニキュアを落とす手間がかかる。</p> <p>今回、パルスオキシメーターの原理を知ることで現状のパルスオキシメーターの機能の追加、測定条件の緩和が可能かどうか研究し、現状のパルスオキシメーターから派生した便利な機械の可能性を考える。</p>
4.研究の実施方法と実施にあたっての倫理上の問題点	<p>パルスオキシメーターの原理、原則について調べそこから派生できるか考え実践するためには機器メーカーの協力が必要になってくるが、メーカーへのインフォームドコンセントをしっかりと行いオプトインにて対応する。</p>
5.研究実施期間	2021年5月現在
6.研究の実施場所	関東脳神経外科病院 外来・手術室

パルスオキシメーターからの派生の可能性

研究計画書

医療法人啓清会 関東脳神経外科病院 看護部 外来・手術室 看護師

研究代表者 坂本佑樹

第1版 作成年月日：2021年5月21日

1. 研究名称

パルスオキシメーターからの派生の可能性

2. 研究実施体制

本研究は以下の体制で実施する。

1. 研究責任者 関東脳神経外科病院 看護部 外来・手術室 看護師長 山岸浩
2. 研究分担者 関東脳神経外科病院 看護部 外来・手術室 看護師 坂本佑樹
関東脳神経外科病院 看護部 外来・手術室 看護師 吉田百花
3. 個人情報管理者 関東脳神経外科病院 病院長 清水暢裕
4. 外部解析機関 なし

3. 研究の背景・動機

現在、新型コロナウイルス感染が問題となっており、救急外来にて問診だけではなく体温測定やパルスオキシメーターを用いてバイタルサイン測定をしている。体温は接触型体温測定器を使用し、酸素飽和度はパルスオキシメーターを用いている。なるべく、感染を最小限にするため一つの機械で双方が測定できないかと考えた。また、マニキュアをしている場合に酸素濃度を測定する際にマニキュアを落とす手間がかかり、患者とかわる時間が多くなり感染のリスクが高くなるため、パルスオキシメーターの原理を知ることによって現状のパルスオキシメーターの機能の追加、測定条件の緩和が可能かどうか研究し、現状のパルスオキシメーターから派生した便利な機械の可能性を考える。

4. 研究の目的及び意義

パルスオキシメーターの原理を知ることによって現状のパルスオキシメーターの機能の追加、測定条件の緩和が可能かどうか研究し、現状のパルスオキシメーターから派生した便利な機械の可能性を考える。

5. 研究の期間及び方法

(1) 研究実施期間

2021年5月現在

(2) 研究のアウトライン

日々の救急搬送または外来受診された患者へバイタルサイン測定とともにパルスオキシメーターを使用、測定することによるそこから派生の可能性を評価する。

(3) 研究のデザイン

調査・実施。

(4) 研究の実施方法

パルスオキシメーターの原理、原則について調べ、実物を分解し構造を理解し派生の可能性について機器メーカーに問い合わせする

(5) 調査項目と資料・情報の収集方法

教材、機器メーカーに問い合わせ

6. 評価項目

接触型体温計とパルスオキシメーター双方別々の測定時とパルスオキシメーターから派生した便利になった機械で双方一緒に測定した際の効率の比較

7. 研究対象者の選定方法

(1) 選択基準

研究期間中に救急外来にきて測定をした症例

8. 研究の変更、中止

(1) 研究の変更

本研究の研究計画書などの変更または改訂を行う場合は、あらかじめ関東脳神経外科病院倫理委員会の承認および病院長の許可を必要とする。

9. インフォームド・コンセントを受ける手続き等

(1) 研究内容の公開（オプアウト）

目的を含む研究の実施についての情報を関東脳神経外科病院のホームページを掲載すること、また研究員の連絡先を明記することで研究対象者が拒否できる機会を保証する。

(2) インフォームド・コンセント

研究にあたり協力してくださる機器メーカーにしっかりとインフォームド・コンセントを行いオプトインにて対応する

10. 個人情報の取り扱いと匿名化の方法

本研究で取り扱う試料・情報等は、個人情報管理者が匿名化したうえで研究・解析に使用する。匿名化の方法については、誰のものか一見して判別できないよう、本研究で取り扱う情報から個人を鑑別できる情報を削除し、独自の符号を付す作業を行う。個人情報と符号の対応表には、個人情報管理者が厳重に保管する。また、本研究の成果を学会発表及び論文発表する際には、研究対象者の個人を特定できる情報は一使用しない。

11. 研究対象者に生じる負担並びに予測されるリスク及び利益、これらの総合的評価ならびに当該負担及びリスクを最小化する対策

(1) 予測される利益

新型コロナウイルス感染にかかわらず救急外来にきた患者に対し時短で対応でき、患者の負担を軽減するとともに看護師等、医療従事者の感染を防ぐことができる

(2) 予測される危険と不利益

なし

12. 資料・情報の保管および破棄の方法

研究対象者の本研究終了後に継続する通常診療に於いて活用される従来の診療情報については、医師法等の関連法規に従い保管する。本研究の実施のために匿名化され取得した研究関連情報については、研究責任者の所属する部署家の外部から霧がなされたコンピューターのハードディスク内に保管する。情報をとり扱うコンピューターを明日ワード管理し、情報の紛失・遺漏等に十分配慮した取扱いで管理を行う。

本研究終了後において、本研究で得られた研究対象者の情報を他の研究に於いて使用することはない。研究責任者は、研究終了後、研究等の実施に係るデータ及び文書を研究の中止または終了後少なくとも5年間、あるいは研究結果発表後3年経過した日までの間のどちらか遅い期間まで保存する。その後、個人を特定されないよう処理したうえで破棄する。なお、通常診療に用いる医療情報の保管・破棄は医師法等の関係法規に従うこと

13. 研究期間への長への報告内容及び方法

(1) 研究の実施の適正性若しくは研究結果の信頼を損なう事実等の情報を得た場合
研究責任者は、研究の実施の適正性若しくは、研究結果の信頼を損なう事実若しくは情報または損なうおそれのある情報を得た場合は、速やかにその旨を当該病院長へ報告する

(2) 研究の倫理妥当性もしくは科学的合理性を損なう事実等の情報を得た場合
研究責任者は、研究の倫理的妥当性若しくは科学的合理性を損なう事実若しくは情報または損なうおそれのある情報であって、研究の継続に影響を与えると考えられるものを得た場合は、遅滞なくその旨を病院長へ報告する。

(3) 研究終了（中止の場合を含む）の報告

研究責任者は研究終了したときは、その旨及び研究の結果概要を文章により病院長に報告する。

(4) 研究に用いる資料及び情報の管理状況

研究責任者は、得られた情報等の保管について、必要な管理を行い、管理状況について病院長へ報告する

14. 研究の資金源等、研究機関の研究に係る利益相反及び利益等、研究者等研究に係る利益相反に関する状況

(1) 研究資金

なし

(2) 利益相反

なし

15. 研究に関する情報公開方法

本研究の成果は病院内発表を予定している

16. 研究対象者及びその関係者からの相談等への対応

研究者及びその関係者からの相談については、以下の相談窓口にて対応する。

【相談窓口】

研究責任者

関東脳神経外科病院 看護科 山岸 浩

〒360-0804

埼玉県熊谷市代 1120

TEL : 048-521-3133

17. 委託業務内容及び委託先の監督方法

本研究における委託業務なし

18. 使用文献

なし